

2

浦安市の非核平和への取り組み

■平和学習青少年派遣事業

21世紀を担う青少年を対象に、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、そして平和の尊さを学ぶため、長崎市で開催される青少年ピースフォーラムへ浦安市平和使節団として派遣します。

全国の青少年とともにフィールドワークや交流会などを通して、被爆の実相と平和の尊さを知り、戦争や核兵器の無い平和な未来を築くことを目的に青少年派遣事業として実施しています。



平和使節団

【青少年ピースフォーラムとは】

全国から集まった青少年が、参加型平和学習を通して、被爆の実相や平和の尊さを学ぶほか、交流と相互理解を深める事業です。全国の自治体が派遣する平和使節団が参加するほか、長崎県内の小・中学生、高校生、長崎市青少年ピースボランティア(主に高校生・大学生のボランティア)が参加します。



式典会場



フィールドワーク

【平和使節団による長崎派遣報告会】

毎年秋に開催している、長崎の語り部による被爆体験講話に合わせ、浦安市平和使節団による報告会を実施しています。

青少年ピースフォーラムに参加し、全国の同世代の仲間や現地のボランティアと平和について学習したこと、平和祈念式典・被爆の遺構のフィールドワークなどの体験を通して各人が感じたことを発表し、平和の大切さを市民のみなさんへ伝えていきます。



報告会

■小・中学校被爆体験講話及び非核平和パネル展

戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、そして平和の尊さを学んでもらうため、非核平和事業の一環として、市内小・中学校を対象に非核平和パネル展及び被爆体験講話を実施しています。

被爆体験講話は、市内の被爆者で構成する浦安被爆者つくりの会の協力により、会員が講師として、自身の被爆体験談や戦時中の様子などを、資料をおりまぜながら行っています。また、被爆体験講話に合わせ、学校にて原爆写真パネルを巡回展示しています。



小・中学校被爆体験講話



学校パネル展示

■非核平和街頭キャンペーン

8月6日広島、8月9日長崎に原子爆弾が投下され、一瞬にして多くの尊い命が奪われました。浦安市では、原爆死没者のご冥福と世界の恒久平和を祈り、家庭や職場で1分間の黙とうを捧げていただくよう、市内鉄道3駅にて平和街頭キャンペーンを実施しています。

キャンペーンは、長崎へ派遣される浦安市平和使節団や浦安被爆者つくしの会が中心となり、啓発物資を配布しながら、市民のみなさんに呼びかけを行っています。



非核平和街頭キャンペーン

※この事業の他、8/6及び8/9の原爆投下日に合わせ、市庁舎では、職員及び来庁者へ黙とうの呼びかけを行っています。

■広島・長崎原爆被災展及び長崎の語り部による被爆体験講話

次第に風化していく原爆あるいは戦争の記憶を今にとどめ、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さを多くの市民に、特に戦争を知らない若い世代や次の世代を担っていく児童・生徒に伝え、もって平和の尊さを理解することを目的に広島市、長崎市から協力を得ながら、「広島・長崎原爆被災展」を開催しています。

また、開催にあわせて(公財)長崎平和推進協会の協力により、長崎から被爆体験者を招き、長崎の語り部による被爆体験講話を実施しています。



長崎の語り部による被爆体験講話



広島・長崎原爆被災展

■横断幕・懸垂幕の掲出

浦安市では、昭和60年3月29日に非核平和都市を宣言し、本市が「非核平和都市」であることを横断幕や懸垂幕を設置することによって、市民に広く周知し、市民の意識の高揚を図っています。



横断幕(浦安駅前)



懸垂幕(市役所本庁舎)

■親子平和バスツアー

次代を担う子ども達とその保護者を対象に、夏休みの期間中に平和関連施設を見学し、親子で戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを学んでもらうことを目的に実施しています。



親子平和バスツアー（第五福竜丸展示館）

■原爆パネル展

7月中旬から8月末日まで、市役所本庁舎1Fの住民ホールにて、原爆パネル展を開催しています。戦争の話題が多くなるこの時期に、改めて平和の尊さや戦争の悲惨さについて考えていただくことを目的としています。



原爆パネル展

■千羽鶴の献納

市では毎年市民のみなさんへ呼びかけを行い、千羽鶴の献納を行っています。

市へ届けられた千羽鶴は、平和の願いとともに主に広島・長崎へ献納しています。



千羽鶴の献納

■宣言塔・宣言板等の設置

昭和60年3月29日に、核兵器の完全禁止と廃絶、世界の恒久平和確立を願い、非核平和都市を宣言しました。市内各所に宣言塔や宣言板等を設置し、市民のみなさんに周知しています。



宣言碑 (新浦安駅前)



平和の像 (若潮公園)



宣言塔 (市役所前)

■非核平和啓発カレンダーの作成

毎年非核平和都市宣言文や非核平和事業等を掲載したカレンダーを作成し、市内小中学校及び自治会に配布しています。

■被爆クスノキ

長崎に原爆が投下された爆心地から南東へ約800mのところにあった山王神社の2本のクスノキは、原爆の強烈な熱線とすさまじい爆風のため、枝葉は吹き飛ばされ、幹も大きく裂けてしまい、一時は枯れてしまうのではないかと考えられました。しかしその後、新たな芽を出してよみがえりました。

現在は長崎市の天然記念物に指定され、地域の人々や子どもたちによって、原爆の恐ろしさと生命力の強さ・尊さを伝えるものとして、大切に保存されています。



山王神社の2本の大楠は強烈な爆風と熱線により枝葉は吹き飛び、幹は途中から折れて黒焦げとなった。(長崎原爆資料館所蔵)

この被爆したクスノキの種から育てられた苗が、平和への祈りを込めて長崎市より寄贈され、北部小・東小・舞浜小・見明川中の市内4校に植樹されました。



舞浜小



見明川中

■日本非核宣言自治体協議会

日本非核宣言自治体協議会は1984年に広島県府中町で設立されました。設立の趣旨は「核戦争による人類絶滅の危機から、住民一人ひとりの生命とくらしを守り、現在および将来の国民のために、世界恒久平和の実現に寄与することが自治体に課せられた重大な使命である。宣言自治体が互いに手を結びあい、この地球上から核兵器が姿を消す日まで、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界の自治体に呼びかけ、その輪を広げるために努力する」というものでした。

現在、事務局は長崎市に移され、全国約290自治体により組織され、総会、研修会のほか、さまざまな平和事業などを通して設立の趣旨の実現に努力している組織です。

浦安市は、昭和61年に当協議会に参加し、各自治体との情報交換や各種事業に参加しています。

■平和首長会議

1982(昭和57)年6月24日、ニューヨークの国連本部で開催された第2回国連軍縮特別総会において、荒木武・広島市長(当時)が、世界の都市が国境を超えて連帯し、ともに核兵器廃絶への道を切り開こうと「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」を提唱し、広島・長崎両市長から世界各国の市長宛てにこの計画への賛同を求めました。

平和市長会議は、この「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」に賛同する世界各国の都市で構成されたNGO団体です。

近年になり、日本国内への加盟呼びかけが行われ、浦安市でもこの意向に賛同し、平成21年12月に加盟しました。現在、世界約160の国や地域で、約5,800都市の賛同を得ています。 ※平成25年8月に開催された第8回総会にて、名称が「平和首長会議」に改称されました。



■浦安市被爆者団体育成補助金

被爆者団体を育成することにより、その活動を通じて市民に核兵器の廃絶及び恒久平和の理念を浸透させるとともに、被爆者の福祉増進を図るため、被爆者団体の運営及び事業に要する経費の一部に対して補助金を交付しています。